

【MedTec Forum】 編入学第1回生に期待する

二 宮 治 彦 (人間総合科学研究科 / 臨床医学系)

医療科学主専攻は開学3年目を迎え、4月には3年次入学生(編入学生)を初めて迎えた。この際、来年度以降に本主専攻への編入学をめざす学生諸君への参考にもなるよう、本主専攻の教育過程の特色・魅力・意義をとくに3年次および4年次のそれを中心に明らかにしておこうと思う。

本年度3年次入学第1回生として入学した5人は、全員が筑波大学医療技術短期大学部衛生技術学科の卒業生(平成17年度)であった。幸いにも全員が「臨床検査技師」国家試験にも余裕をもって合格しており、優秀な学生を迎えることが出来たのは幸いであった。実際に入学した学生諸君が学類教育に期待するところは個々に異なるであろうと考え、第1回生全員に今号への寄稿を依頼した。

編入学生に対する教育課程上の対応を、私自身がカリキュラム委員として検討する過程で考えていたことを振り返りながら、編入学第1回生への期待を記しておきたい。

1. 編入学の目的

先行して4年制大学化した多くの国立大学も編入学制度をもっている。筑波大学医療技術短期大学部は、国立大学の中では4年制大学化が遅かったため、むしろ、短期大学部卒業生の多くがそのような先行大学へと進学していった。短期大学部卒業後の進学にはそれぞれの事情や目標があるが、最大の目標のひとつは学歴・学位であろう。それぞれ、経済的事情が許せばより高度な教育を受けたいという向学心によって進学していった。短期大学部への入学時には「臨床検査技師」の資格さえ得られればどこでも働ける、病院で働きたい、と考えていたものの、いざ就職活動をする過程で厳しい現状を実感して進学を選んでいった先輩もいたように思う。なかには、国家試験への再挑戦が進学後の大目標になってしまう

た短期大学部の先輩もいた。短期大学部卒業生が、さらに高度な教育や学歴を求めて大学院へ進学するためには、学士の称号はほぼ必須なので、「放送大学」で単位取得を行って学位(学士)を得た後、大学院進学をした勤勉な卒業生もいた。一般には、編入学によって大学へと進学した学生さんの方がより確実に学士の取得が出来ていたように思う。

卒業生に会って体験談を聞くと、短期大学部の在学中には想像しなかったものの、実際、編入学して勉強するにしたがって、学問に目覚め、研究者やより高度なプロフェッショナルをめざして大学院へと進学していった先輩も多くいる。本学の学群(類)教育も編入学生の学問へのモチベーションを刺激するメニューの準備が求められる。

2. 編入学生を迎えるメニュー

短期大学部と本医療科学主専攻の教育課程の違いは単純には1年分、約30単位、である。基本的には編入学生は「臨床検査技師」の国家資格をすでに取得していたり、少なくともその受験資格を有している。編入学生は、むしろ、基礎科目・総合科目に単位の不足しているため、入学後はこれらの科目を履修する必要が出てくる。いわゆる教養科目である。

筑波大学が全学的に学群学生に要求しているスタンダードはいくつかあるが、編入学生がまず直面するのは「英語」の重視とその到達度の客観評価であろう。科学は英語ですものど誰かがいっていたが、科学をめざす学生諸君にとっては最低要求ラインなので、より高度な資格や実力をめざして、大学の授業を超えて、在学中に(後悔しきりの私からみればできるだけ若いうちに)頑張るべき。

医療科学主専攻のカリキュラムの特徴的なメニューは3年次と4年次を中心に配置してある。その第1は、「卒業研究」。人間総合科学

研究科の医学5専攻(博士課程)や医科学修士課程を担当されている教員が主催する研究室を中心に、約1年間研究室に配属されて、各自のテーマを1つ決めて研究します。この科目は、研究者や高度プロフェッショナルを目指す学生にとっては基盤を形成する重要なもので、十分な時間をとれるように設計しています。第2は、専門科目の選択肢の豊富さです。専門基礎科目・専門科目には多くの選択科目が設けてあり、学生は各自が志向するアカデミズムによって選択して学ぶことが出来ます。編入学生にはすでに履修している専門科目(臨床実習など)があり、多くは国家資格をすでに有しているため、単位認定によって余裕が生まれます。余裕が生まれた時間を共通科目・基礎科目の履修によって教養の裾野を拡げ、専門科目の選択履修によって学問を深めて欲しいと思います。特に、編入学生は「臨床検査技師」+ を求めて進学されているので、自ら柔軟にカリキュラムを設計し視野を拡げてください。

他大学の教育課程を必ずしも詳細に比較検討したわけではありませんが、「臨床検査技師」の国家資格を得た学生がキャリアアップをめざしたり、自分の職業人としての方向性を見定めるには有利なカリキュラムが提供できていると信じています。このような広範・多岐な選択科目を開設し続けるのは、実は、教員サイドからすると多くの困難があるようにも思われますが、学生には恵まれた環境であるということが出来ます。

来年度以降、本専攻への3年次入学をめざす方々には医療科学主専攻のHPからカリキュラムを公開していますので、是非、一度ご覧ください。URLは

<http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/cnmt/Medtec/index.htm> です。

3. 第1回生に期待する役割

本年度の編入学生は全員が筑波大学医療技術短期大学部衛生技術学科の最後の卒業生であり、多分、医療科学主専攻の最初の卒

業生にもなります。この特異な位置を5人は強く意識して欲しいと、私は思っています。

医療技術短期大学部衛生技術学科の卒業生(約800人)は全国に拡がっており、いわゆる同窓会はしっかりと組織されていないようです。「私の大事な、大好きだった医短がなくなってしまってさみしい」と感じている短大卒業生も多いでしょう。医療科学主専攻最初の卒業生の輩出まであと1年以上ありますが、同窓会を「医療科学」という単位でしっかり組織した方がいいのではないかと思います。これは、学類(主専攻)の第1回生全体で考えて自発的に準備して欲しいと思います。この際、多くの医療技術短期大学部の先輩がすでに筑波大学附属病院をはじめとして全国にいますので、そのような先輩諸兄と筑波の同窓という枠で連携をもって行くにあたって、編入学第1回生には、特に、期待するところ大なのです。医学専門学群(現医学類)は比較的活発に同窓会が運営されています。それも参考にしながら、進めていってください。期待しています。

実は、筑波医療科学(TJMS)の刊行を企画した目的にはIT時代の同窓会組織の媒介として利用していただけるのでは、との意図も含まれています。是非、ご活用ください。